

足羽川ダム建設事業におけるインフラツーリズムの取り組みについて

尼丁 勇輝¹

¹近畿地方整備局 足羽川ダム工事事務所 工事課 (〒918-8239福井県福井市成和1丁目2111)

足羽川ダムは、足羽川、日野川及び九頭竜川の下流域における洪水被害の軽減を目的として建設が進められている洪水調節専用の流水型ダムであり、完成すれば日本最大級のゲート付き流水型ダムとなる。現在ダム本体建設工事はダム堤体のコンクリート打設に向けて基礎掘削及び仮設備の工事を進めており、一般の方にも注目されつつあり、現場見学会への来訪者数が増加傾向にある。また、昨今のインフラ施設を観光とするインフラツーリズムが注目を集めており、足羽川ダムもその一つになることが期待される。本論文では、ダム事業に関する情報発信やプロジェクトチームを編成した活動及びそれらに関連する取り組み内容を紹介する。

キーワード インフラツーリズム、ダム見学、地域活性化

1. 足羽川ダム建設事業について

足羽川ダムは、九頭竜川水系足羽川の支川部子川（福井県今立郡池田町小畑地先）に建設する高さ96m、総貯水容量28,700千 m^3 、有効貯水容量（洪水調節容量）28,200千 m^3 の重力式コンクリートダム（図-1、図-2）である。下流地域の洪水被害軽減を唯一の目的としており、平常時は水を貯留しない洪水調節専用の流水型ダムである。

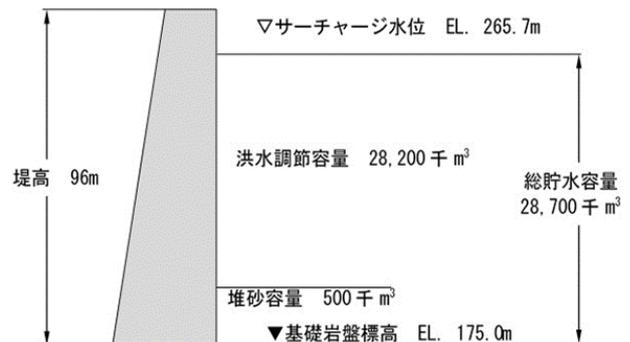


図-2 足羽川ダム貯水池容量配分図



図-1 足羽川ダム位置図

足羽川ダム建設事業は、河川整備計画期間内に整備する足羽川ダム本体及び水海川導水施設（分水堰・導水トンネル）をⅠ期事業として現在工事中である。また、将来計画（Ⅱ期事業）として、足羽川、割谷川及び赤谷川から洪水を導水する計画である（図-3）。

現在供用中の流水型ダムには、辰巳ダム（石川県）、益田川ダム（島根県）などがあるが、いずれも堤高50m程度であり、足羽川ダムが完成すればこれらを上回る国内最大級の流水型ダムとなる（図-4）。

2022年3月時点の事業進捗状況としては、ダム本体は基礎掘削（写真-1）を進行しており、導水トンネルは約66%の掘削が完了している。



図3 足羽川ダム計画平面図



図4 足羽川ダム完成イメージ



写真-1 基礎掘削状況写真 (2022年3月)

2. 足羽川ダム工事事務所における広報活動

近年、インフラ施設を観光するインフラツーリズムが注目されており、巨大な構造物のダイナミックな景観を楽しんだり、インフラ施設の役割や背景を学ぶことができる。そこで、ダムは迫力のある観光資源として期待されており、ダムツーリズムの一環として観光放流やダム堤内外の見学を通して、ダムの持つ役割を一般に発信しているダムも増加している。

足羽川ダムにおいても、国内最大級の流水型ダムとして、多くの方に事業の目的を知っていただくために、積極的に情報発信に取り組んでいる。広報プロジェクトチーム（以下、広報PT）を編成して若手職員主体でアイデアを出し広報活動の内容について定期的に議論を行

っている。広報活動として行ってきた取り組みの事例を以下で紹介する。

(1) 足羽川ダム現場見学会

本格的にダム本体建設工事が始まった足羽川ダムの工事現場を様々な方に体験していただくために、現場見学会を実施し、職員が建設までの背景やダムの機能・役割なども紹介しながら、ダム本体および導水トンネルの現場見学会を行っている（写真-2、写真-3、写真-4）。

令和3年度では、以前まで現場にて事業説明用の看板を用いて説明を行っていたが、より足羽川ダムの事業について知ってもらうためモニターを用いた説明を行った。現場見学会を実施するにあたり、広報PTにおいて事業説明や見学会の流れ、また、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策（検温やアルコール消毒、説明者のフェイスシールド着用、参加者のマスク着用、参加人数の制限など）について、事務所内で勉強会を行い、見学会の対応を行った。

さらに、広報PTを中心に見学会を充実させるための様々なアイデアを出して、工夫を凝らした見学会を行っている。その一つに、ダムカードフレームを用いて、ダムの建設地などを背景に世界に一つだけのダムカードが撮影できるようにしたものを設置している。そのほかに、見学者へのアンケートを行い、更なる改善にも取り組んでいる。例として、「インターネットによる工事進捗状況をアップしてほしい。」といった感想をいただき、YouTubeによる情報発信など（後述）を行った。

また、令和3年度の来場者数は令和元年度（平成31年度）よりも、新型コロナウイルス感染症の影響により少なくなっているが、平成30年度、令和2年度の来場者数からは増加しており、一般の方への関心度が上がっていることが分かる（図-5）。



写真-2 現場見学会のようす（モニターによる事業説明）



写真3 現場見学会のようす (基礎掘削状況の見学)



写真4 現場見学会のようす (基礎掘削状況の見学)

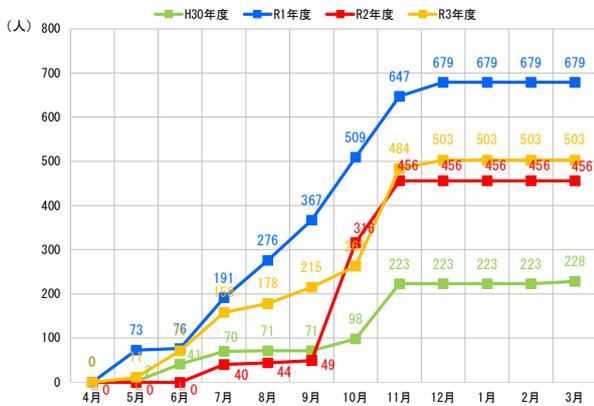


図5 現場見学会来場者数グラフ (一般)

(2)ダムギャラリーあすわ及びダム本体建設工事展望台

2021年10月1日に、迫力ある建設現場を体験できる展示施設「ダムギャラリーあすわ(写真-5)」及び展望台「ダム本体建設工事展望台(写真-6)」を開設した。自由に見学できる施設となっており、開設後多くの方にご利用いただいている。

「ダムギャラリーあすわ」では、施設内に足羽川ダムに関する説明や資料をパネルと動画で見学できるほか、水海川導水トンネルの水理模型の展示やダム本体の巨大パスによる記念写真コーナーもあり、事業や工事進捗

について見学することができる。また、水没地に住まわれていた方々の生活のようすや池田町に関するパンフレットを設置し、情報提供を行い地域振興の場としても活用している。「ダム本体建設工事展望台」では、ダム建設現場上流からダム本体建設工事を一望できる展望台となっており、日々変化していく工事のようすを見学することができる。すぐ隣には「付替県道7号橋」が架かり、橋脚には洪水時の最高水位を示す印があり、展望台から貯水の規模を肌で体感することができる。

また、「ダムギャラリーあすわ」の開設にあたり、2021年9月30日にオープニングセレモニーを開催し、地域の関係者及び地元の小学生に参加いただいた(写真-7)。セレモニー後に小学生を対象とした足羽川ダムに関する校外学習と、「ダム本体建設工事展望台」において本体工事の現場を見学していただき普段では体験出来ない工事現場を学習してもらうことができた(写真-8, 写真-9)。参加した小学生からは、「ダムの規模に驚いた。国内最大級の流水型ダムということで、池田町の誇りに思う。」といった感想をいただいた。



写真5 ダムギャラリーあすわ室内



写真6 ダム本体建設工事展望台 (2022年11月)



写真7 ダムギャラリーあすわオープニングセレモニー



写真-8 地元小学生を対象とした校外学習



写真-9 地元小学生を対象とした現場見学会

(3) 足羽川ダム ニュースレター

工事の流れや進捗状況、イベント実施時の内容（式典や池田町民限定の現場見学会）について広く情報発信をするため、足羽川ダムニュースレター（資料-1）を定期的に発行している。ニュースレターは年3回程度発行し、池田町役場やまちの市場「こってコテいけだ」などで配布し、足羽川ダムを知ってもらうひとつのツールとして取り組んでいる。令和3年度は、掲載内容については広報PTで議論し、工事進捗状況やオープニングセレモニーについての合計3号（29号～31号）を発刊した。工事の進捗状況やダムについて理解してもらうために、何を

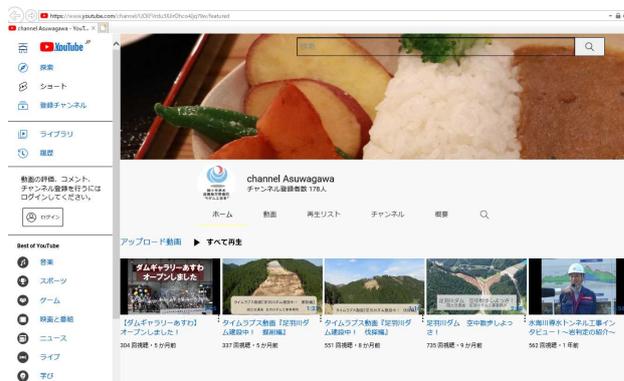


資料-1 ニュースレター31号

紹介するべきか工夫し、わかりやすいニュースレターとなるよう工夫して作成した。今後も進捗状況等について情報発信を行っていく。

(4) 動画を活用した広報活動

YouTubに公式チャンネルChannel Asuwagawaを2017年から設けており、定期的に3～4分の動画を投稿している。令和3年度は、タイムラプスで撮影した本体工事進捗状況の紹介やドローンで建設地の状況を空撮した動画などをアップした。タイムラプスにより樹木伐採から基礎掘削の進捗の様子を閲覧することができる。今後は、ダム堤体のコンクリート打設や水海川分水施設工事の様子を撮影し、進捗状況を紹介することで多くの方に足羽川ダム建設事業に興味を持っていただけたらと考えている。



資料-2 足羽川ダムYouTube公式チャンネル

4. 今後の展望

より多くの方に池田町や足羽川ダムを知ってもらうために様々な活動を行っているが、新型コロナウイルス感染症対策及び安全対策を実施した上で引き続き、現場見学会を開催していく必要がある。また、イベントなど一過性のもとするのではなく、開設した広報施設「ダムギャラリーあすわ」・「ダム本体建設工事展望台」を活用することにより継続的に実施できる企画を用意して、池田町や足羽川ダムのPRを行うことで、来場者も増加し、池田町の地域活性化にも寄与できると考える。そのためには、ニュースレターやYouTubeなどを利用して、広く情報を発信できるよう広報活動に力を入れていく必要がある。また、BIM/CIMを活用した3次元モデル（図-6、図-7）を来場者の方にタブレットを用いて操作していただき、立体的なダム完成後のイメージを来場者の方に体験していただく等、体験を取り入れた広報活動も考えられる。

さらに、足羽川ダム完成後においては、流水型ダムの「平常時には水をためない」という特徴を活かして、ダム壁面でのボルダリングが実施できれば、観光資源が創出され、更なる池田町の魅力向上に繋がると考える。実際に、高知県にある横瀬川ダム（四国地方整備局）では

ダム壁面を活用した、クライミング施設の横瀬川ダムクライミングウォール³⁾がある(写真-10)。平常時はダムを観光資源として積極的に利用することで地域活性化に寄与し、洪水時はダム本来の利用ができれば足羽川ダムの有効活用に繋がると考える。

加えて、池田町内のツリーピクニックアドベンチャーや日本の滝百選に選ばれている龍双ヶ滝など(写真-11、写真-12)⁴⁾と組み合わせたダムツーリズムができれば、さらに注目を集めることができると考えられる。広報活動を通じて、一般の方への事業の理解を得るための一つの手段として、インフラツーリズムを推し進めていきたい。



写真-11 ツリーピクニックアドベンチャーいけだ



図-6 3Dモデルのイメージ例

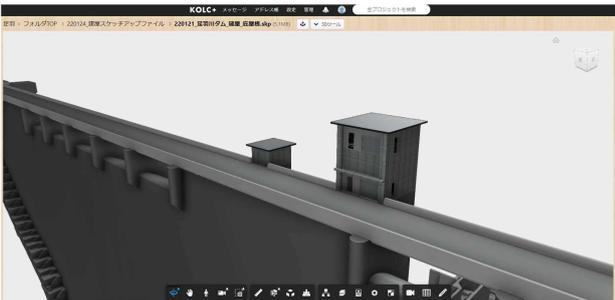


図-7 3Dモデルのイメージ例



写真-12 龍双ヶ滝



写真-10 横瀬川ダムクライミングウォール³⁾

5. おわりに

足羽川ダムでは、工事を進めているため、進捗に応じた広報活動を展開していく必要がある。例えば、工事が完了した後での広報施設について、(仮称)足羽川ダム管理支所(管理棟)に設置することを考慮して設計を行っていく必要があることや工事進捗による事業説明を更新していく必要がある。

今後、来場者が増加していく中で、ダムの魅力を発信するため、これまでの広報活動を継続・拡充していき池田町の地域活性化にも寄与していきたい。

参考文献

- 1) YouTube公式チャンネルChannel Asuwagawa
<https://www.youtube.com/channel/UCKFVrdu3XJrOhco4Jjq79w/featured>
- 2) 渡川ダム統合管理事務所ウェブサイト
<http://www.skr.mlit.go.jp/watarigawadam/>
- 3) 宿毛市ウェブサイト
<https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-18/18068.html>
- 4) 福井県池田町HP
<https://www.town.ikedai.fukui.jp/index.html>